

甲賀市レッドリスト 2022 両生類 概要

◇ 甲賀市の両生類（両生類相および地理分布の特徴、解明度）

- ・ 甲賀市の両生類については、市内でサンショウウオなどの有尾目が 6 種、カエル類の無尾目が 13 種の計 19 種の記録があった（「甲賀市爬虫類目録および生息状況 2017」）が、新たにヌマガエルが加わり、無尾目が 14 種となり、計 20 種が記録されている。甲賀市水口町の丘陵地にある、みなくち子どもの森園内では有尾目 2 種、無尾目 9 種の両生類が確認されている（河瀬ほか，2010）。
- ・ 甲賀市の両生類の分布について、鈴鹿山脈、信楽山地、中央部の丘陵地域の 3 地域にわけて説明する。
- ・ 鈴鹿山脈は土山町域と甲賀町域の東部にあり、主稜線は 1000m 前後の急峻な山地で、深い渓谷も多い。最源流にはマホロボサンショウウオの記録があり、細い沢にはヒダサンショウウオやタゴガエルが生息する。溪流には、ハコネサンショウウオ、ナガレタゴガエルの記録があり、ナガレヒキガエルの姿やカジカガエルの鳴き声のある場所が多い。山裾の林道や水田周辺の溜まりには、春になると、ヤマアカガエル、ヒキガエルの産卵も見られる。山際の小さな池にはモリアオガエルが産卵し、アカハライモリが見られる。山裾の田んぼにはトノサマガエルが多い。
- ・ 信楽山地は高原状の山地であり、深い渓谷は少なく、緩やかな小川が流れる谷沿いに湿地環境が多い。緩やかな川には、以前はオオサンショウウオ生息地があり、細い沢にはタゴガエルが多く、ヒダサンショウウオの記録もある。湿地や小さな池には、モリアオガエル、ヤマアカガエル、ヒキガエルの産卵が見られ、アカハライモリが生息する。山沿いの水田や土堀りの溝には、ツチガエル、トノサマガエルが見られ、シュレーゲルアオガエルも産卵に訪れる。
- ・ 水口町、甲南町、甲賀町一帯の丘陵地域は、谷津田（谷戸）の環境が数多く存在し、雑木林に接した水田が多い。そのため、樹林からの湧き水がある水田の溝には、ヤマトサンショウウオ、ニホンアカガエルの産卵場所がある。湧き水が多く、年中湿った水田には、ダルマガエルの個体数が多い場所もある。また、シュレーゲルアオガエル、トノサマガエル、ニホンアマガエルが普通に見られる。この地域に 3000 以上ある溜池には、外来種のウシガエルが広く侵入している。水口町平野部の野洲川のワンドや河川敷の溜まり、水路網には、ツチガエルが見られる。野洲川の伏流水が湧く水路に、アカハライモリが残る場所もあったが、ほとんどが消滅した。

◇ 甲賀市レッドリスト 2022 両生類 掲載方針

- ・ 甲賀市レッドリストでは、市内に分布する両生類を評価対象とした。
- ・ 2009 年夏に自然館で両生類に関する特別展を開催し、その準備段階で市内の両生類調査

が広く実施された。ヤマトサンショウウオの産卵地調査、ダルマガエル、ニホンアカガエルなど水田の両生類を市内広範囲で実施した。また、生き物観察会や有志の方らを通じて、多くの市内の両生類についての情報が自然館に収集されており、(山間部を除いた)市内の両生類の分布はかなり明らかになっている。

- ・ カテゴリー定義：「絶滅種」は過去に生息したが、現在は見られない種。「絶滅危惧種」は、市内に数ヶ所以内の生息地、繁殖地。「絶滅危機増大種」は生息地が少ない。生息域が限定される。もしくは減少度合いが著しい。「要注目種」は情報不足のため、上記分類群に入る可能性が高いが決定できないもの。良好な環境に生息する指標種で注目が必要な種など。「地域種」については、甲賀市付近に特徴的な分布をする種や、市内に特有な形態や遺伝の型が分布する種、市内の環境を特徴づける種を選定した。
- ・ 外来種については、別に扱うべきであり、対象としなかった。

◇ 甲賀市レッドリスト 2022 両生類 掲載種の概要

- ・ 各カテゴリー掲載種数(甲賀市レッドリスト 2007, 2012 と比較)は以下表のとおりであった。

表. 甲賀市レッドリスト 2022 両生類 掲載種数

＼	2022	2017	2012	2007	備考
絶滅種	0	0	0	0	
絶滅危惧種	1	1	1	2	
絶滅危機増大種	5	5	5	5	
要注目種	10	9	8	7	
地域種	1	1	1	3	地域種の定義変更(2012)
(合計種数)	17	16	15	17	

- ・ 掲載種は、絶滅危惧種ではオオサンショウウオ、絶滅危機増大種ではヤマトサンショウウオ、ナゴヤダルマガエル、ヒキガエルなど、要注目種ではアカハライモリ、トノサマガエル、ツチガエル、モリアオガエルなど、地域種はニホンアカガエルを指定した。

◇ 甲賀市レッドリスト 2017 両生類からの変更とその理由

- ・ 絶滅危惧種 1 種(前回 1 種)、絶滅危機増大種 5 種(前回 5 種)は変更がない。
- ・ 要注目種 10 種(前回 9 種)では、新たにヌマガエルを掲載した。市内の一部地域(香南町、甲賀町)で分布が確認されたためである。
- ・ 地域種 1 種(前回 1 種)のニホンアカガエルも変更がない。水田周囲に湿地や湧き水のある水田が多い甲賀地域の自然環境の保全を啓発したい。

◇ 甲賀市レッドリスト 2022 両生類 今後の対策・留意点

- ・ この5年以上、市内で野生のオオサンショウウオ記録が得られていない（2022年6月に水口町の野洲川で保護された個体は兵庫県からの移入個体と判明した）。信楽町の大戸川、信楽川における再発見が望まれる。
- ・ マホロバサンショウウオ（旧コガタブチサンショウウオ）、ヒダサンショウウオ、ハコネサンショウウオ、ヤマアカガエル、ナガレタゴガエルなど山地に生息する種については、情報不足の現状である。マホロバサンショウウオは新たな記録が得られたが、この5年以内にハコネサンショウウオ、ナガレタゴガエルの追加記録はない。また、産地での生息数が多いナガレヒキガエルも、土山町大河原の溪流のみで確認されており、それ以外の分布情報は得ていない。
- ・ 水田周辺の両生類については調査が進行し、市内の生息状況がかなり判明したが、ダルマガエルが生息し、ニホンアカガエルが多数産卵する、周囲に土掘りの溝がある丘陵部の谷の水田域は休耕・放棄田が増加している。
- ・ 環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類（VU）に指定されたヤマトサンショウウオは、甲賀市周辺の生息地数は決して少なくなかった（甲賀市みなくち子どもの森自然館，2016）が、空中写真や現地調査で確認したところ、約7割の生息地は、発見場所や周囲が休耕田やスギ植林地に変化しつつある山際の小規模な水田である。現在、小規模な水田は機械化に不適なために休耕・放棄の流れが急速に進んでおり、5年後、10年後に生息地数が大きく減少する可能性が高い。市内では、幾つかの産地で産卵が確認できなくなっている。

【参考文献】

- 環境省（2020）環境省レッドリスト 2020. <<http://www.env.go.jp/content/900515981.pdf>>（2020年3月27日公表、2022年9月閲覧）.
- 河瀬直幹・小西省吾・横山明子・西村淳子・新保健志（2010）みなくち子どもの森の爬虫類. みなくち子どもの森自然館（編），みなくち子どもの森年報告第5号（平成17～20年度），pp.60-61.
- 甲賀市みなくち子どもの森自然館（2007）甲賀市レッドデータブック- 守ろう!!甲賀の自然と生き物. 80pp., 甲賀市, 甲賀.
- 甲賀市みなくち子どもの森自然館（2013）甲賀市レッドリスト 2012. <<http://www.city.koka.lg.jp/item/10943.htm>>（2018年1月閲覧）.
- 甲賀市みなくち子どもの森自然館（2016）カスミサンショウウオと甲賀の里山. 甲賀市史編さん委員会（編），甲賀市史 第8巻 甲賀市事典, pp.457-458., 甲賀市, 甲賀.
- 甲賀市みなくち子どもの森自然館（2018）甲賀市レッドリスト 2017 <<http://www.city.koka.lg.jp/item/11775.htm>>（2022年9月閲覧）.
- 松井正文（2005）爬虫類と両生類. 日野町史編さん委員会（編），近江日野の歴史 第1巻 自

然・古代編, pp.215-238., 滋賀県日野町, 日野.
滋賀県生きもの総合調査委員会 (2021) 滋賀県で大切にすべき野生生物-滋賀県レッドデータブック 2020. 675 pp., 滋賀県自然環境保全課, 大津.
富田靖男・清水善吉 (2010) 亀山市の両生類相. 亀山市史編さん委員会 (編), 亀山市史 自然編, pp.595-625., 亀山市, 亀山.

【両生類担当者：氏名（所属）】（敬称略、あいうえお順）

河原 豪（長浜バイオ大学）

新保 建志（甲賀市立中学校）

中谷 成一（滋賀県生物環境アドバイザー）